

タウンモビリティのまちづくり事業2006

平成18年10月1日～10月29日



活動報告書

平成19年2月

ホリデータウンわかやまNET

☆メッセージ

ホリデータウンわかやまNET代表 くりすたきじ

社会実験を終えて・・・

☆ 今回の社会実験にはいくつもの目的がありました。

- ① 和歌山市ぶらくり丁周辺の歩道、交差点、車道、商店街アーケード内を電動スクーターで走行する際にどれだけ安全であるか調査すること。
- ② 電動スクーターを必要とする人たちにスクーターを提供し、試乗体験を通して生き生きとした暮らしづくりに役立ててもらうこと。
- ③ 将来の計画として、電動スクーターを常備し、無料で貸し出すことができるステーションを開設する足がかりとすること。
- ④ 上記③の目的である、中心市街地のにぎわいを創出し、商業活性化をサポートすることが可能であるのか実験を通して推測すること。

以上の4項目を大きな目的とし実験を行いました。その結果として得られた情報を元に各項目に沿って報告します。



①安全に走行できる条件としてまず、段差のない歩道と車道が求められます。今回の実験は走行コースを事前に決めて行いました（コース図 P7, 8 参照）。最も走行困難と予想したのは、京橋の歩道の段差と傾斜、さらに北側交差点の傾斜でした。結果として、今回メーカーより提供していただいたスクーターが最新型であったということも考慮されますが、予想以上に安全に走行することができました。バリアフリーという視線で捉えたぶらくり丁周辺はある程度安全と言えますが、あくまでもスクーターによる走行実験です。ボランティアとして付き添っていただいた方のアンケートでは、危険箇所が数箇所報告されています（P14 参照）。

次に予想したのは歩道上での自転車や歩行者とのトラブル。そして、車道での車両とのトラブルです。歩道上ではやはり危険を感じる場合が多く、特に自転車とすれ違う時や後方から追い抜かれる場合です。スクーターのバックミラーは機能が万全とは言えず、また、運転者は後方に対する安全意识がほとんどない状態でした。

コース上では旧丸正前の交差点から北ぶらくり丁入り口までの歩道が最も狭く、歩道に駐車したバイクや自転車もあって、スクーター1台分の走行スペースしかありません。自転車や歩行者と対向する場合は、どちらかが道を譲らなくては走行できません。また、今回は4～5台の縦列走行でしたから交通整理が必要でした。

歩行者とのトラブルに関してはぶらくり丁の人出が少ないことなどから特に危険を感じませんでした。ところが、運営スタッフによるデモ走行を和歌山城内で行った際に、城内イベントの人ごみの中を走行しましたが、前に進むのが非常に困難でした。その原因として、人ごみの中ではスクーター1台分の走行スペースを確保できないこと。歩行者の認識としてスクーターを障害者として見ていないこと。そのために道を譲ってもらえないこと。さらに高度な運転技術が要求されることなどです。

（次ページに続く）

☆メッセージ

社会実験を終えて・・・

車道での車両とのトラブルに関しては、ドライバーの安全意識が高くスクーターに道を譲るなどの配慮があるため今回は危険を感じませんでした。

走行困難を予想した中に交差点の横断時のトラブルがありましたが、これは予想以上に危険を感じました。コース上では市役所西角のスクランブル交差点が最も危険でした。けやき大通りは、最も幅の広い道路ですが、スクーターの速度は3キロの設定で走行していたため、青信号の間に横断することが困難で、6キロでないと横断できない場合があります。

②今回の実験ではスクーターを健常者の人たちにも開放しましたが、やはり試乗予約されたのは歩行の困難な人たちがほとんどでした。実験期間中にスタッフとして最もうれしかったことは、これらの人たちが生き生きとして運転されていたことです。できれば、もっと多くの人たちに試乗して欲しかったのですが、広報不足のため試乗者が少なかったのが残念です。

販売店での試乗は購入が前提となりますから、今後このような気軽に試乗体験できる場が必要と感じました。

③和歌山市におけるタウンモビリティの実現が、今回の社会実験の最大の目的でした。高齢化社会に適した交通改革は必至です。その改革の方策のひとつとして、電動スクーターや車イスを常備したステーションの開設が必要と考えました。結果として得た情報は二つです。

1. 市街地でのスクーターの走行は非常に危険を伴うこと。

これはステーション開設に向けて致命的な障害になると感じます。開設には資金や場所、運営と云った問題がまず考えられます。また、走行の安全に関しても危惧されていたことですが、こうして実験の結果として得た重大な情報を見逃すことはできないと思います。

実験は8日間開催されました。決して短い期間ではありません。無事故で終了したことが一番の成功であったと感じます。

2. スクーターで利用できる施設や店舗が少ないこと。

もうひとつの大きな障害として感じたことです。今回は店舗や施設への乗り入れはなかったのですがスクーターの機能、形態や運転者の運転技術が今のままでは非常に未熟なために乗り入れが困難と感じます。

また、店舗、施設のバリアフリー化は車イス等に介護者が付いたり、動力を使用しない自走車両を前提に進められているように思えます。

人ごみの中での運転困難を経験すると店舗、施設への乗り入れはきっと躊躇してしまいます。このことは今回の実験で得た貴重な情報であると思います。

(次ページに続く)



☆メッセージ

社会実験を終えて・・・

④中心市街地のにぎわいを創出し、商業活性化をサポートすることを目的に掲げました。これは高齢化社会にあって引きこもり高齢者の外出を促す手段として電動スクーターの利用を意図したものでした。

結果としては③に記述した二つの情報がこの実現を妨げるように思います。老後も自らの力で外出することは大きな生きる力になります。しかし、実験の情報からは、たとえステーションが実現したとしても、ボランティアによる付き添いが安全の面から欠かせない条件として浮かび上がってきます。

さらに、スクーターの店舗、施設への乗り入れも困難が予想されます。電動スクーターは屋外を走行する乗り物であって、屋内には向かないように思います。

現在、街中で見かけるスクーターは路上だけであって、店舗、施設ではまったく見かけません。その原因も③の情報2. によって説明できるのではないのでしょうか。



☆まとめ

タウンモビリティの実現に向けて今回の社会実験で得た情報は、その実現が非常に困難であることを示唆しています。しかし、高齢化社会に適合した交通改革は必要であり、それがなかったら高齢者の外出は望めません。中心市街地において高齢者向けの店舗、施設は今後増加すると思われれます。そんな中で外出手段や交通機関の整備も進むはずでず。

そのような動きが加速される中で、電動スクーター利用者のための教習場や交通ルールをまず整備し、その上でスクーターを貸し出すステーションを高齢者向け複合施設内に設置することが理想です。

また、電動スクーターに変わる高齢者用の乗り物が出てくる可能性もあります。そう云った様々な可能性に期待を込めて、高齢者社会の中で人びとが生き生きと暮らして行けるまちづくりに取り組む必要性を強く感じます。高齢者にやさしいまちは、全ての人にやさしいまちなのです。

中心市街地の活性化に向けて様々な人たちがアイデアを絞って試行錯誤を繰り返しています。市民一人ひとりがまちづくりのプロデューサーなのです。このまちをもう少しだけ元気にしたい。それは小さな小さな願いですが、実現に向けて努力を重ね続けたいと思います。

☆基本計画

《事業名称》 タウンモビリティのまちづくり事業 2006
『わかやまループ』完成をめざして

《事業内容・目的》

- 電動スクーターを常備し、無料で貸し出すことができるステーションを設置します。
- 今回は社会実験として開催し、電動スクーターの利用者は指定されたルートボランティアの介助を得て走行します。
- 電動スクーターを利用して、ぶらくり丁周辺道路のバリアフリー状況を調査します。
- 和歌山市中心市街地のにぎわいを創出し、商業活性化をサポートします。

《主催》 ホリデータウンわかやま NET

《共催》 和歌山市

《協賛》 ダイワロイネットホテル和歌山／株式会社スズキ自販和歌山／和歌山ホンダ株式会社

《事業対象者》

- 歩行が困難で電動スクーターを必要とする人たちや、スクーターの運転を体験したい人たち。
- 事業目的に賛同しボランティアとして参加できる市民及び開催地域住民・商店

《事業期間》 平成18年10月1日～10月29日 毎週土・日曜日
午前10:00～午後3:00

《開催場所》 ぶらくり丁商店街，北ぶらくり丁商店街，本町通り商店街，ぶらくり丁大通り商店街，公園前商店街及び周辺道路・和歌山城公園

電動スクーターに乗ってぶらくり丁を散歩してみませんか・・・。

☆開催概要



10月1日(日) 予行演習 AM10:00~11:30

場所 ぶらくり丁コース試走 運営スタッフ

10月7日(土) AM10:00~12:00 午後雨天中止

場所 ぶらくり丁コース 試乗者4名 ボランティアスタッフ5名

10月8日(日) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者6名 ボランティアスタッフ4名

10月14日(土) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者3名 ボランティアスタッフ4名

10月15日(日) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者1名 ボランティアスタッフ4名
和歌山城コース試走

10月21日(土) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者9名 ボランティアスタッフ5名

10月22日(日) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者2名 ボランティアスタッフ4名

10月28日(土) AM10:00~PM3:00

場所 ぶらくり丁コース 試乗者7名 ボランティアスタッフ3名

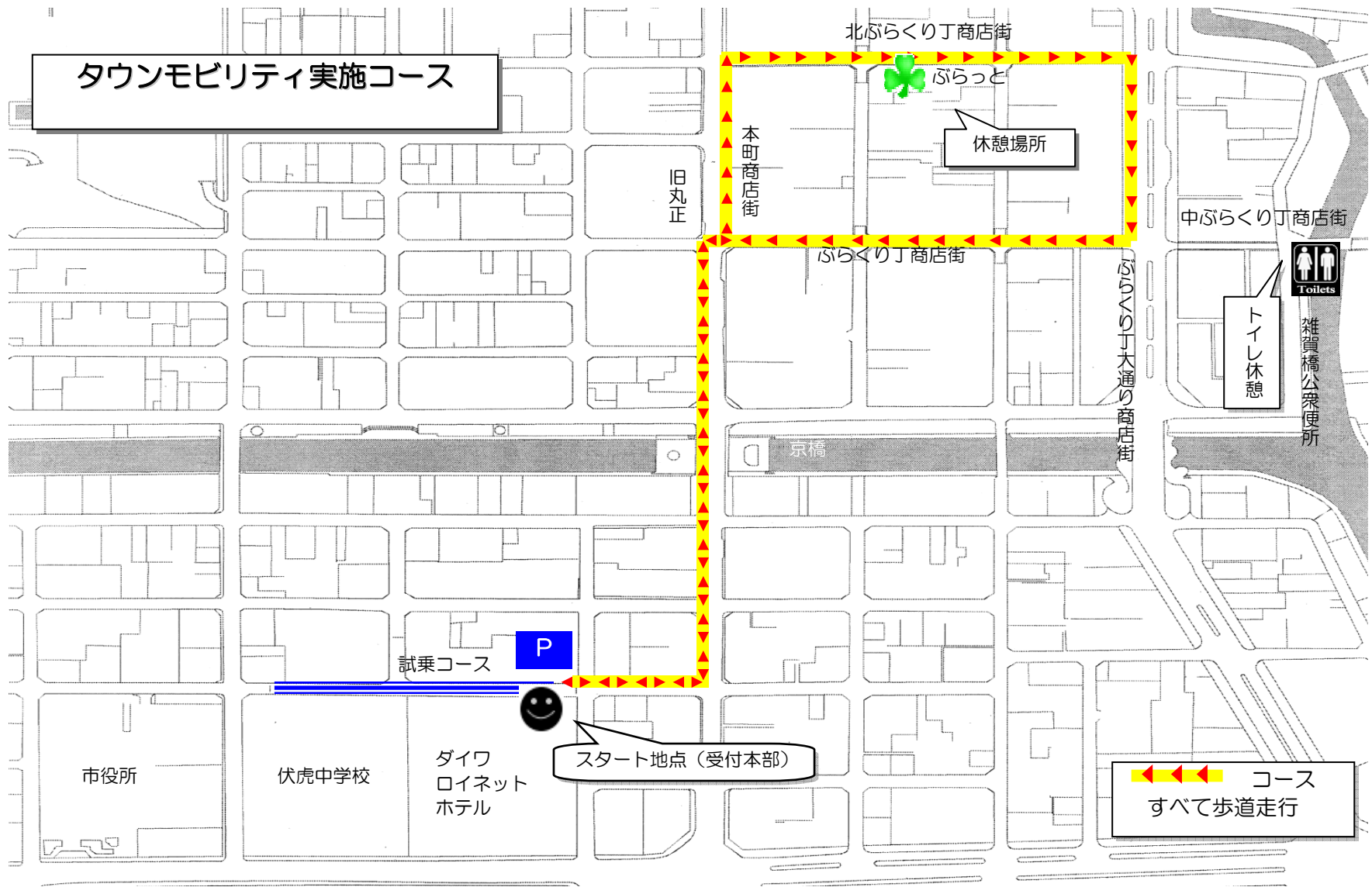
10月29日(日) AM10:00~PM3:00

場所 和歌山城コース 試乗者2名 ボランティアスタッフ4名

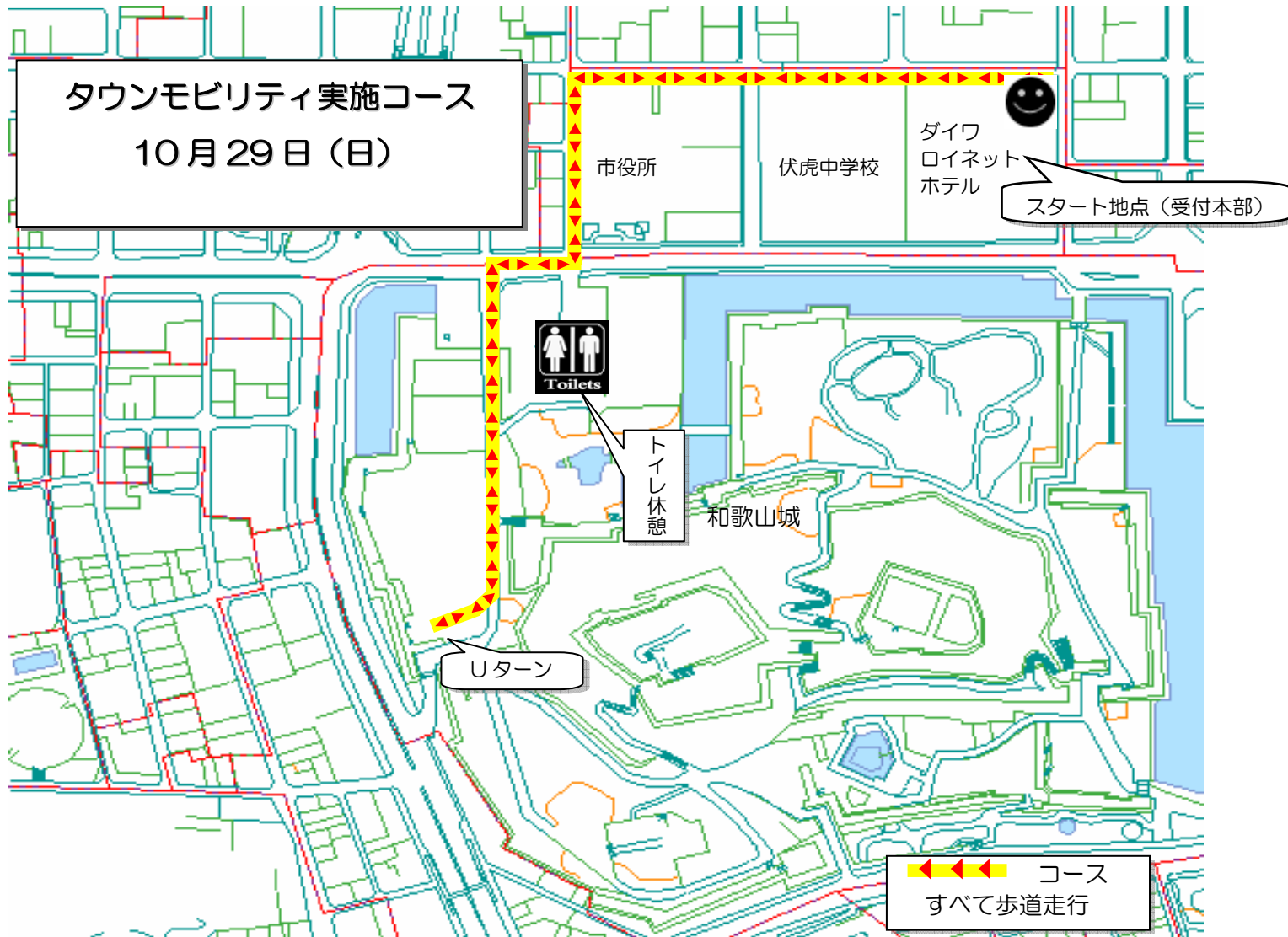
○試乗者 コース延べ34名 受付前7名

○ボランティアスタッフ 延べ33名

☆試乗コース図 受付～ぶらくり丁



☆試乗コース図 受付～和歌山城



☆活動記録①

実施スケジュール

項 目	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
運営会議	21日		24日	22日	19日	10日	7日 28日	3日 19日		
基本計画書		○作成	○作成 ○確認							
実施計画書			○作成	○作成	○作成	○確認				
ルート図作成(現地調査)				○作成	○作成	○確認				
広報計画			○原稿	○原稿	○広報	○広報	○広報		○ 広報 (取材)	
キックオフ大会(9/3)								○開催		
運営マニュアル							○作成	○作成 ○確認		
予行演習(10/1)									○実施	
事業開催(10/1~29)									○実施	
報告書(07. 2月発行)										○ 原稿 ○ 編集
チラシ				○原稿	○作成 ○校了	○配布	○配布	○配布		
ポスター・サインボード						○作成	○配布	○サイン ボード		

☆活動記録②

広報

☆ボランティア募集・開催告知記事

和歌山市市報・わかやま新報・ニュース和歌山・リビングわかやま

☆番組放送

wbs和歌山放送 つれもて和歌山 8月28日
テレビ和歌山 わがまち和歌山 11月19日

☆チラシ・ポスター

A4チラシ カラー両面 300枚
A3ポスター カラー 50枚



「電動スクーター」に乗って、ぶらくり丁を散歩してみませんか・・・。
「タウンモビリティのまちづくり事業」を開催します。



「高齢者に優しいまちづくり」は
「みんなに優しいまちづくり」です。

生活道路や店舗、施設のバリアフリーは高齢者社会の必需品です。
私たちがめざすバリアフリーは、人と街のふれあいつくりから始まる、
心のバリアフリーです。



★事業の内容や目的は、なんだろう？

☆電動スクーターを常備し、無料で貸し出すことができるステーションを設置します。
☆歩行の困難な人たちが、電動スクーターを体験したい人が利用の対象となります。
☆今回は社会実験として開催します。電動スクーターを利用される人は、指定されたルートボランティアの介助を得て走行します。ルート内であれば買い物も楽しめます。
☆利用時間は1回につき約1時間です。10分程度の簡単な試乗もできます。
☆電動スクーターは5台用意します。希望者は利用日を予約することもできます。
☆電動スクーターを利用して、ぶらくり丁周辺道路のバリアフリー状況を確認します。
☆和歌山市中心市街地のにぎわいを創出します。

★ボランティア参加のみなさんへ。

☆お手伝いしていただく内容。
○開催当日に電動スクーターを利用される人に付き添ってコースを歩いて頂きます。
（電動スクーターは歩く早さで走行します。）
○開催当日は受付にて待機して頂きます。
○開催期間中の都合の良い日を選んでご参加ください。1日だけでも結構です。
☆開催日までの日程（参加は自由です）
○9月3日（日）にボランティアのみなさんに集まって頂いて事業説明会を行います。
○10月1日（日）に予定演習と電動スクーターの運転講習会を行います。
☆ボランティア参加者にはお昼のお弁当を用意します。
☆詳しくは参加申込み先までお問い合わせください。

★いつ、どこでやるのだろう？

☆開催期間 平成18年10月1日～10月29日 毎週土・日曜日に開催
（10月1日はボランティアによる予定演習のみ）
☆開催時間 午前10:00～午後3:00
☆開催場所 和歌山市ぶらくり丁商店街及び周辺道路・施設
☆受付本部 ダイワロイネットホテル和歌山北口玄関前

★電動スクーター試乗申込み先は・・・こちらです。



和歌山市まちづくり推進室まちおこし推進課
和歌山市七番丁23
電話 435-1233
FAX 435-1256
E-mail machiokoshi@city.wakayama.lg.jp

★「タウンモビリティのまちづくり事業 2006」

☆主催 ホリデータタウンわかやまNET（代表 くりおたまじ）
☆共催 和歌山市
☆協賛 ダイワロイネットホテル和歌山ノ株式会社スズキ自販和歌山
和歌山ホンダ株式会社

ボランティアで参加して頂けるスタッフを募ります。

☆活動記録③

試乗者アンケート集計①

☆性別

男性 10名 女性 31名

☆年齢別

30-34歳 3名 40-44歳 2名 45-49歳 5名

50-54歳 3名 55-59歳 2名 60-64歳 5名

65歳以上 21名

☆住所

和歌山市 39名 岩出市 2名

☆参加のきっかけ

新聞・広報 12名 ラジオ番組 1名 友人に誘われて 22名 その他 6名

☆受付までの交通

徒歩・自転車 13名 自家用車 19名 タクシー 1名 その他 7名

☆運転の感想

簡単で快適 25名 簡単だった 8名 ふつう 3名 意外とむずかしい 5名

☆運転中に怖いと思ったこと

なかった 27名 あった 14名

☆あったと答えた人の理由

歩行者と当たりそうになった 3名 歩道が狭くて動けなくなった 1名 歩道の傾きや段差で倒れそうになった 5名

路上駐車や電柱に当たりそうになった 1名 危ない時すぐに止まらない 2名 その他 4名

☆スクーターを購入したいと思いますか

思う 15名 わからない 19名 無回答 7名

☆スクーターの貸し出しがあれば利用しますか

有料でも利用する 10名 無料なら利用する 8名 わからない 12名 利用しない 1名

その他 10名

☆活動記録④

試乗者アンケート集計②

☆自由意見

初めてですが、良い経験になりました。ゆくゆくはお世話になるでしょうね。

スクーターの構造上、①アクセルを可変に変更、②ブレーキペダルを希望する。

便利でいいと思いましたが、お年寄りの方が乗る場合、気をつけないといけない場所が結構あるなと思いました。体験できて良かったです。

思ったより簡単で乗りやすかった。ただ、道が急に狭くなったり、広くなったりするのに疑問を感じた。歩いている時感じない坂も急に感じた。あと、お店に入って、買い物したり、お茶を飲めたらおもしろかったのになあ。

集団でやってみるものの効果はあったと思います。必要とする人はもっと多いはず。私も膝を痛めた時、気軽に利用できたら良かったのになあと思いましたので、利用促進の方法をもっと工夫してはいかがでしょう。

とっても楽しく運転できました。自分だけの道というような感覚を持つのはダメですね。以後反省。車庫入れは難しいです。

安定感があり、乗り心地よかったです。スタッフのみなさんありがとうございました。

大変よい体験ができて感謝いたします。バリアフリーや道路のでこぼこ、その他まだまだ街中は危険がいっぱいのように思いました。

もっと道路の整備をしないと乗りにくいのではないかと思った。

将来的に必要となると思うので、乗ってみて体験できたことが良かった。

最高に良かった。スクーターのデザインが良くて簡単だったのが良い。

大変勉強になりよかったです。73歳の母(両足まひ)に一度試して乗せてみたかったので、とても良い機会になりました。現実に使用するには、家か

☆活動記録⑤

試乗者アンケート集計③

将来的には利用を考えた店や道路になることを望みます。家にこもりがちな人が外に出て気分まで変わると思います。

対象者が試乗地まで来るのが難しい。急停車の時足が出る。

車を運転する立場としては、あまり出会いたくないと思った。かなり注意が必要だと実感。利用する立場としては、路面のでこぼこや信号の青の時間の短いことを改めて感じた。

道路の状態が車いすなどには良くない事がわかった。

良いと思います。

乗りやすくて良かった。自転車にも乗れない人にも勧めたいと思います。

大変良かったです。

自転車に乗れなくなったら欲しいです。

大変うれしく思っております。又、参加出来ればうれしいです。

より多くの人に体験してもらって、理解してもらいたいと思いました。みんな、いつかは高齢になり、不自由になると思います。

初めての体験で腕に力が入りました。

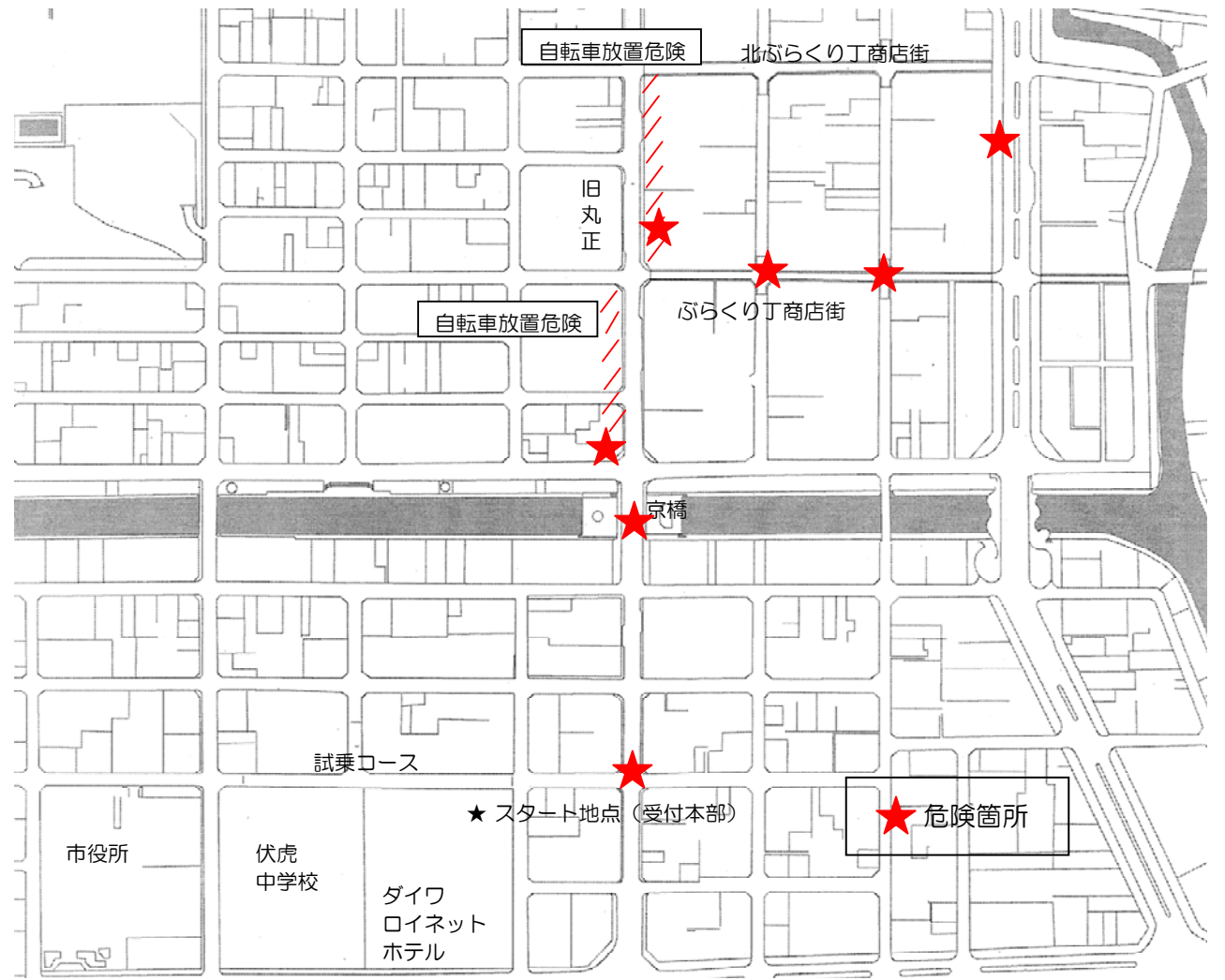
将来、利用するかもしれないと思い、参加させていただきました。最初は難しいものだと思いましたが、慣れるにつれ、足、腰が弱くなった時の為、良い体験となりました。ありがとうございました。

大変親切に指導いただいて愉快地に乗れました。ありがとうございました。

☆活動記録⑥

歩道危険箇所調査

電動スクーターに付き添っていただいたボランティアの皆様から報告を受けた危険箇所



☆活動記録⑦

支援団体・運営スタッフ（順不同・敬称略）

☆タウンモビリティのまちづくり事業2006の開催にあたり、皆さまにはご支援とご理解を賜りました。深く感謝申し上げます。

☆支援ボランティアの皆さま

18名

☆支援企業

ダイワロイネットホテル和歌山／株式会社スズキ自販和歌山／和歌山ホンダ株式会社／株式会社和歌山印刷所
株式会社WBS和歌山放送／株式会社テレビ和歌山

☆運営スタッフ

8名

ホリデータウンわかやまNET／くりすたきじ・太田淳二・鳥淵朋子
和歌山市まちおこし推進課・池田宗晃

